

# AIWFF2011 ニュースレター

## 9月9日

金曜日

あいち男女共同参画財団  
企画協働課内  
電話 (052)962-2520  
http://www.aiwff.com

### 明日・明後日 チケット情報

売行き状況  
○余裕有、△残少、×完売

▼9月10日(土)  
○「牛と一緒に泊る8日」  
△「武士の家計簿」  
○「キッズ・オールライト」

○「沈黙の春を生きて」  
○「ブダマウンテン」  
○「ヘッドレスサー」

▼9月11日(日)  
○「テンバ 希望の少年」  
○「春との旅」

○「ツイステッド・ルーツ」  
○「2 lines」



## =日独交流150周年記念= ドリス・デリエ監督特集

### 日本初公開など3作品一挙上映

今年プロイセンの東方アジア遠征団が1860年に江戸に到着し、翌61年に日本との修好・通商・航海条約を結んでから150年。この日本とドイツとの外交関係樹立150周年を祝おうと昨年秋から一年間、両国間で多彩な行事が繰り広げられています。

この記念すべき年に当たり、あいち国際女性映画祭では、この25年余、立て続けにヒット作を輩出、日本でも人気のドイツ映画界を代表するドリス・デリエ監督の特集を企画。

1955年ドイツ ハノーバー生まれのデリエ監督は、'73年から2年間米国カリフォルニアの大学で映像、演劇をそして、ニューヨークで哲学、心理学を修学。'83年に「STRAIGHT THROUGH THE HEART」の撮

影で初来日。後の作品に日本文化の影響が色濃く投影されていく。'85年の喜劇「MEN」が6百万人を集客する大ブレイク。以来、ドイツ映画賞の最優秀脚本、最優秀監督など数々の賞を受賞、確固たる評価を得ている。

彼女の多才ぶりは映画以外でも発揮され、小説、短篇作品での評価も高く、また'01年ベルリンステートオペラでの演出をこなし、各方面で絶賛されている。現在、ミュンヘン在住。大学で映像の教鞭も執っている。娘一人の母。

今日の特集トップ作品は、最新作「ヘッドレスサー」。実話をヒントに描かれた、逞しく生きる女性美容師のストーリー。

デリエ自身「脚本家からこの美

容師の、心底元気で、ユーモラス、そして胸のすくような生き生きとした話を聞いたとき、すぐにも撮影したいと思った」と熱意のほどを語っている。デリエ監督の心意気が伝わり、本当に心地よい爽快感が残ります。

愛知初公開の「HANAMI」はドイツ映画賞受賞作。日本文化へのこだわり振りが窺えます。夫婦愛を情感たっぷりと、そして深く映し出す、まさに監督の才能を改めて実感する作品。

「漁師と妻」は05年新潟県山古志村(現長岡市)で撮影が行われ、当映画祭07年に続く



2度目の上映。裏面に作品紹介があります。

### トークサロン

山上千恵子監督、  
早川由美子監督登場  
聞き手：加藤和己(映画祭イベントディレクター)

『ドキュメンタリーって本当に面白いの?』のテーマに沿って掘り下げたトークが進行。ドキュメンタリー製作の要諦について山上監督は、「何かの運動、活動や出来事だけでなく、その“ひと”を撮ることが大切であり、その人の悲しみ、喜びを『撮る』ことを大切にしている。」と述べ、ドキュメンタリーの編集では、「ある人物像やシーンを作り上げてしまうことが出来るというのが非常に怖いので、常にそこを意識している」と発言。また早川監督は「ドキュメンタリーにおいてはインタビューが核と成る為、その人の本音を取材するためにも人間としても信頼関係を築いていくことが大切だ。自分の考えに従い、率直に自分が伝えたいことを



をまとめるようにしている」と語った。

会場では終始、二人のドキュメンタリー映画への熱い思いが伝わる中、「今後ともより多くの皆さんに作品をご覧頂くことで、引き続き、映画作りに励んでいきたい。」との決意でサロンを締めくくった。

### ゲストトーク速報

「私の少女時代」  
チャオ・ホイリー監督



映画が終わると、チャオ・ホイリー監督、フェン・ゼンジ監督が登場。「中国では

経済が急速に発展し、物質的には豊かになっていますが、精神的なものは置き去りにされています。この映画では、人々に精神的なものを取り戻して欲しいという希望を込めており、人への思いやりがあれば困難も乗り越えられる。3月、震災後の日本の皆さんの支えあいには感銘を受けた。」と述べた。モデルとなった中国障害者連合会長のチャン・ハイディーさんの印象につい

て、「苦しみと向かい合っているが、微笑を絶やさない。」とコメント。映画には、チャン・ハイディーさんの「駆け巡っていたい」という思いを自身が車を運転している場面で間接的に表現していることを披露。ファンダン役のキャスティングについては、リー・イーシャオさんの笑顔、泣き顔が人々に感動を与えることを指摘。またチャン・ハイディーさんに似ていたことを挙げた。最後には、チャオ・ホイリー監督が大好きだという「さくらさくら」を一緒に歌おうと呼びかけると、会場に合唱の輪が広がり、歌い終わると大きな拍手が起こった。

### ゲストトーク速報

「山川菊栄の思想と活動」  
山上千恵子監督

会場からの大きな拍手に迎えられて登場した山上千恵子監督。映画の上映に先立って、「この映画を一人でも多くの方に見ていただけること

に感謝します」と挨拶。



山川菊栄生誕120年を記念して制作依頼を受けた監督は、山川菊栄に関する歴史的な事象だけでなく、山川と接触した人々の資料や写真なども用いて制作。思想や生涯など多面的な菊栄を世に伝えたい。」と話し、客席の菊枝記念会関係者からも「この映画で菊栄の認知度が上がれば」と期待が述べられた。

「当初は30~40分程度のドキュメンタリーの予定であったが、菊栄に関する資料を読み込み、インタビューを行ったりしていくうちにどんどん菊栄にのめりこんでいった。」と振り返り、

「一生を通して生き方がぶれず、思想がずれない。」と人物像の魅力語った。

山川菊栄が男女平等社会のために歩んだ道、闘った道は一代で終わるものではなくまだ続いている。菊栄の残した道はこれから我々が受け継いでいかなければならない。「山川菊栄は亡くなったが、彼女の思想は永遠に続くものである。女たちがものを言い、ことを起こしていかなければならない時である」と結んだ。

### 会場の皆さんの声・声・声

岡田美代子さん  
(名古屋市)

映画祭に参加したのは今回が初めてで、こうして女性をメインにした映画祭の開催はいいことだ。今後の映画祭でも身体障害者の苦労や生活のあり方など、私たちが知らないことを知りたいと思います。

長田吉子さん  
(名古屋市)

毎回女性の視点から撮られていることは自分自身の勉強になり、非常に興味と関心がある映画祭です。これからの映画祭では戦時中、女性がどう社会を支え、どう現代の女性に影響を与えてきているかというテーマの映画を取り上げて欲しい。

泰良真理子さん  
(半田市)

第一回の映画祭から何度も来場し刺激を受けています。女性の視点で描かれた作品は女性差別の実情をより深く捉えており、より共感できるように思います。この映画祭は自分の生き方に示唆を与えてくれます。

青山伊津子さん  
(岡崎市)

震災直後、被災地では女性が中心となって、炊き出しや人と人を繋ぐ役目をされました。女性自身の強みを生かし、男性には出来ないことをやるのが男女平等社会実現の鍵になるのではと思います。

情報ライブラリーセミナー参加者募集中

無料

### 不安を解消! 親の介護、自分の老後

～事前に知っておきたい、  
仕事と介護の両立の「戦略」～

平成23年 10月16日(日)13:30~15:30

講師 太田差恵子さん(介護・暮らしジャーナリスト)

※詳しくは、ちらしやウィルあいちホームページをご覧ください  
<問い合わせ先> 愛知県女性総合センター指定管理者コングレ・愛知グループ  
ウィルあいち情報ライブラリー 電話052-962-2510

### リフレッシュ エクササイズ教室

～いい汗かいて、毎日を健やかに～

- ★ソフトエアロビクス教室 料金2,800円/4回分
- ★こども教室 <4歳~小学2年生> 料金2,500円/4回分
- ★中高年教室 <女性> 料金2,800円/4回分

場所 ウィルあいちフィットネススタジオ

<問い合わせ先>

(財)あいち男女共同参画財団総務情報課(フィットネス担当)  
電話052-962-2505